

考える会からの提案①「フリースペースの使い方と運営のあり方について」(意見交換のまとめ)

フリースペースの使い方に関する基本的な考え方

いろいろな世代が自由に集まり、常に使われる施設を目指す
自由で、気持ちよく使うためには基本的なマナーやルールが大切
基本的なマナーやルールが周知されるように工夫する
地区センターの管理者も利用者も互いに自然な心配りができる施設に

いろいろな人が利用するきっかけになる機会を多くつくる
一部の占有利用を可能にする(事前申込・許可制・商業利用不可)
占有利用は基本的に不特定多数に向けたイベントでの利用とする
地域住民が地区センターの運営に関わりをもってサポートする

子育てスペースについて

基本的な考え方

- ・ 原則、同伴者(親)が子どもを見守る
- ・ 滞在時間1~2時間くらいのイメージ
- ・ 活用促進のためにもイベント開催を可能とする(一定条件を満たすこと、事前申込と許可が必要、回数上限あり)
- ・ イベントはフリースペース利用のための来場者も参加可能・出入り自由とする。

子どもの見守りについて

- ・ 短時間託児の実施は望ましいが、現実問題困難な点が多い。原則、同伴者(親)が子どもを見守り、補足として定期的に職員等が全体の状況に目を配る。
- ・ 短時間託児は必要に応じて地区センターでのイベント等の主催者が自己責任のもとに実施するものとする。

イベント開催の前提条件

- ・ 子育てに関する内容で不特定多数を対象(身内的な集まりは不可)とする企画、事前申込による許可制、月回・週回までとイベント開催数は限定、イベントの告知を必ず実施、商業利用は不可。

イベントの企画内容について

- ・ 月1回「子育てサロン&子育て相談」(連合町内会と行政の支援)開催可能かも。軸となる定期イベントとして考えては。
- ・ 前提条件にあてはまる地域サークルなどによる単発的なイベント開催も可能とする。
- ・ 子育てスペースを拡張して利用する際はブルーシートなどを引いて、裸足で歩けるようにする。

要領事項として

- ・ 万一来備えてカメラ設置の検討を(防犯と事故状況確認)。

まちづくりサロン・広場について

基本的な考え方

- ・ 地域のいろいろな世代が交流し、互いに学びあう場
- ・ 学びあいから、マナーやルールが自然に醸成される場
- ・ 常に地域の人が利用している場(防犯にもつながる)
- ・ 地域住民が望ましい運営について、指定管理者と連携して一定の役割を担う。
- ・ いろいろな世代が気軽に集まりやすい企画を行う

地域との連携について

- ・ ボランティア登録制度をつくり、時間帯や役割分担を整理する。登録ボランティアはスタッフカードを所持する。
- ・ 子ども用のスタッフカードも作成。子どもが管理や運営などに関わり、地域に参加するきっかけをつくる。
- ・ メッセージボードを設置し、館の利用方法のアイデアや利用の感想を書いて情報交換する。

気軽に集まりやすい企画などの開催について

- ・ 月一回定期的な講演会を実施し、施設に人が集まる機会をつくる。
- ・ まちづくり広場に落書きコーナーを設けて子どもが集まる場所に(清掃は子どもが行う)。
- ・ 自由に使える紙(地域から集めたチラシの裏など)をおいておき、子どもが集う場所に。
- ・ 高齢者が気軽に集まれるような企画、多世代が交流できる企画をつくる(高齢者が昔の遊びを子どもたちに教えるなど)。

IT・2階ラウンジ・図書コーナーのイメージ

基本的な考え方

- ・ 自由は大切だが、基本的なマナーやルールを守ってこそその自由。各スペースの趣旨、利用ルール、手続きを明示し、利用者に周知する(テーブルに設置・壁に掲示など)
- ・ パソコンの利用や寄贈図書を借りる際は記名式とする。
- ・ 図書管理などにボランティアが関わっては。
- ・ 長時間の占有などマナー違反は巡回等で注意を促す。

ITコーナーについて

- ・ プリンタや印刷機を設置する場合は、使用ルールを設定する。
- ・ 使用時間は1時間程度の制限を設け、申込制。1時間を越える際は更新手続きをする。
- ・ 被害者・加害者にならぬようセキュリティに配慮する。
- ・ 利用者名簿をつける(セキュリティや利用状況把握のため)。

2階ラウンジについて

- ・ 学習スペースは「静かな」学習のみ、「にぎやか」なものは不可。
- ・ 短時間、少人数(5人くらいまで)の打合せ程度の利用については事務所に申込することで一時占有を可能とする。フリーな利用に優先する。カードで使用許可を明示する。

図書コーナーについて

- ・ 寄贈図書での運営。事務室に寄贈。開架に問題がないか確認する。
- ・ 定期的に巡回し書棚の確認等を行う(勝手な寄贈がないか、等)。
- ・ 寄贈図書の確認などにボランティアが関わっては。
- ・ 名簿に名前を記録することで貸し出し可能とする。自己申告制。

展示での利用について

- ・ 地域内団体・個人の利用が優先。商業目的は不可。
- ・ 館主催の展示企画や地域へ展示利用の呼びかけが必要。
- ・ その他、ルールづくりが必要。

次回、7月31日(火)開催 第5回(最終回)考える会において「地域の関わり」についての意見交換とこの「案」の確認を行う予定です。

子育てスペース検討グループ:意見交換のまとめ

誰もが気軽に使える場所としての活用

前提

誰もが自由に使える場所として活用
滞在時間のイメージは1～2時間程度(それ以上長くなると、子どもから目をはなしたり、常連さんのたまり場になってしまうことも)

イベントなどで活用については、あくまで「子育て」という目的に沿うもの

子育てスペースでの「短時間託児」や「子どもの見守り」について

「理想」を検討すると

館利用者のお子さんの短時間託児・見守りの実施

- ・ 子どもを見守る専門スタッフを1名配置
- ・ スタッフは保育士が望ましい
- ・ 子育てボランティアを育成・登録し、短時間託児や見守りを実施

実現は厳しいのでは

完全な安全を実現できるか

- ・ 専門スタッフのコスト負担は大きいのでは
- ・ 保育士でも1名では完全な安全の実現は困難
- ・ ボランティアスタッフもすべてを見守るのは困難

まず、現実的に検討

完全な安全はフリースペースだからこそ困難
館としての託児運営・管理は厳しいと思う
大原則として、同伴者(親)が子どもを見守る
附帯として、定期的に職員が全体の状況に目を配る
イベント開催時の短時間託児は主催者が必要に応じ検討・実施する
万一の事故を考え、カメラ設置が必要では(防犯と事故状況確認のため)

子育てスペースを活用したイベントの開催について

ベースになる月1企画

連合町内会と行政の支援による定期的な企画が実現可能かも

原則フリースペースなので「月1回」程度にとどめる

開催のイメージ

- ・ 子育てサロンを定期的で開催
- ・ 事前に決定し、広く告知する、色いろな人にスペースを使ってもらえるきっかけ
- ・ イベントを知らず、フリー利用のためきた人も同じように参加可能にする
- ・ 万一人が溢れるほど来た場合にどうするかは調整が必要

具体の企画イメージ

- ・ 広く告知し地域の子育てサークルなどによる「子育て相談」
- ・ 子育てスペースの可動本棚を移動して、隣のスペースと一体化。「赤ちゃん体操」などを広々と実施。
- ・ 隣のスペースと一体化した利用の際は、ブルーシートなどを活用して子育てスペース同様、子どもが裸足で歩けるようにする。

希望者による単発企画

「子育て」に関するイベントであれば単発企画による占有利用も実施する

原則フリースペースなので「月 回、週 回」など開催回数上限を定める

開催のイメージ

- ・ あくまで、子育てに関すること、不特定多数を対象とする企画に限定
- ・ 商業的な利用は不可
- ・ 地域の子育てサークルなどが実施
- ・ サークルの会議など内部・身内的な企画は不可
- ・ 事前申込(2週間位前まで?)が必須。許可制とする。
- ・ 必ず告知を行うことが前提
- ・ 単発企画の開催は「月 回、週 回」など開催回数上限を定める

でないと単なる無料貸室になる

まちづくりサロンとまちづくり広場検討グループ:意見交換のまとめ

色いろな世代が集まって、常に使用される地区センターであることが重要。自然に醸成されるマナーやルールを大切にする。

前 提

誰でも気軽に使える場所
利用者相互の対話の場をつくる
様々な利用をしながらルールをつくる

マナーとルールの浸透が重要

使 い 方 や 運 営 の イ メ ー ジ

大人が子どもと接する場所
子どもたちのマナー教育の場所として活かす
安全を最優先したルールをつくる(走らない!など)
地域住民が望ましい運営について、指定管理者と連携して一定の役割を担う

子どもたちが使いやすい場所に

子ども用スタッフカードをつくろう
・子どもが管理や運営などにに関わり、地域に参加するきっかけをつくる

まちづくり広場に落書きスペースをつくろう
・楽しんだ後は、自分たちできれいに掃除をする

子どもたちが絵を描いてすごせる場所に
・地域で協力して、裏が白いチラシなどを集めて設置し、自由に絵を描く

地域の人々が常に使用する場所に

みんながお互いに学びあう場にしよう!
・使用後の掃除をしている大人をみて、子どもたちが見習う・・・など

メッセージボードを設置
・館の利用者の気づきや感想を書く場所
・こんな使い方もできる、したいなど伝え合う

防犯のためにも地域が常に利用している場であることが大切

大人たちにもボランティアスタッフカードをつくろう
・館の運営管理をサポートするボランティア人材登録制度をつくる
・時間割や役割分担なども整理する

色いろな世代が交流しやすい場所に

月一回の定期的な講演会を開催することで施設に人が集まる機会をつくる

たまり場的な利用について
・お互いに楽しく使う、しかし互いに迷惑はかけない自然なマナーが望ましい(ワークショップの場のように!)

高齢者が気軽に集まれる場所にしよう

高齢者、お父さんお母さん世代、その子どもたちが交流できる行事やイベントを企画する
・高齢者が昔の遊びを子どもに教えるなど

IT・2階ラウンジ・図書コーナー検討グループ：意見交換のまとめ

ITコーナーの使い方について

問題のある使い方をしている人がいる

PCで「作業」をする
付属プリンタで大量にプリントアウトする
迷惑メールの発信元として悪用される

ただ、問題ある使い方をしている人は利用者のほんの一部
大多数の人は問題ないのだが...

最初から管理を厳しくしておいたほうが良い

プリンタや印刷機の使用ルールを設定する
使用時間の制限を設ける

- ・ 1時間程度。継続利用の場合は1時間毎に更新
- ・ 被害者・加害者にならないセキュリティ対策が必要
- ・ 利用者名簿をつける
- ・ 利用者を特定できる仕組みが必要
- ・ エルプラザでは利用者名簿をつけている
- ・ 名簿をつけることで利用状況の把握も可能

無線LANがあるといいな

持参パソコンを自由にインターネットにつなげられる
ようになっていければ良い

2階ラウンジと図書コーナー⇒「静か」フリースペースの使い方について

建設WS当初のイメージ：「お金を使わずに使えるスペースが必要」

自由な「ふれあいスペース」 「制限」は活動を萎縮させてしまい望ましくない

占有利用について

長時間の居座り

- ・ 浮浪者などが居座るかも...
- ・ エルプラザでは巡回や注意を実施

- ・ 館でも同様の注意が必要

学習スペースとしての利用

- ・ 英会話で利用している人がいるかも
- ・ うるさいのは×、静かな勉強は

打合せ等の利用

- ・ 5人までくらいのちょっとした会議はOK（大人数は×）
- ・ 他利用者とトラブルにならないか？

利用申込者優先をルール化

- ・ 打合せ等で利用したい人は事務所に申込
- ・ 申込者はフリー利用者に優先する
- ・ カードをもって利用申込を明示するなど仕組みを検討

図書コーナーについて

図書の寄贈方法・管理

- ・ 寄贈したい図書は窓口に（勝手に本棚に置いていかない）
- ・ 勝手に置かれていないか定期的に巡回する必要もある
- ・ 寄贈図書が問題ないかチェックする必要がある（ボランティアが実施？）

図書の管理

- ・ 持ち帰り厳禁、または貸し出し手続き必要だと管理が大変
- ・ 貸し出しは自己申告制、返す時は自分で棚に戻すようなゆるい仕組みが良いのでは？
- ・ 「子育てスペース」図書は持ち帰り禁止。対応が違うのは問題では？
- ・ こちらは公費（税金）で購入したもの。扱いが違っていいと思う

展示での利用について

館による展示企画立案

- ・ 展示利用の需要は少ないのでは
- ・ 館による企画や地域への呼びかけが必要ではないか？

利用のルール

- ・ 商業目的の展示は不可
- ・ 地域内の団体、個人の利用が優先
- ・ その他、利用のルールづくりが必要

自由は大切だがルールも必要⇒ルールの利用者への周知が重要！

各スペース・コーナーの趣旨、利用ルール、利用手続きを明示

記した紙などをテーブルに置いておく、壁に掲示する